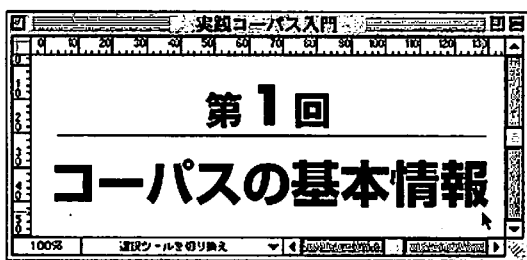
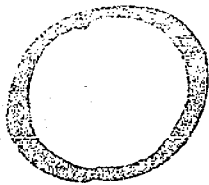


# 投野式 実践 コーパス入門

## 公開! 授業に生きる活用術



明海大学 外国語学部教授 投野 由紀夫



### 英語教育に浸透する「コーパス」

「STEP 英語情報」にコーパスの連載を依頼されたのは実はこれが3度目である。1回目は1999年に「学習者コーパス入門」と題して、当時東京学芸大学を辞して英国ランカスター大学の博士課程で勉強していた時に1年間。次いで英国より帰国して明海大学に勤めた翌年の2002年に「英語教師のためのコーパス入門」と題してまた1年。このような集中連載はコーパス関連の英語教師向けの読み物としては比較的早い時期のもので、今のコーパス・ブームを思うと「STEP 英語情報」編集部の方の先見の明ともいえる画期的な企画だった。それぞれ学習者コーパス・一般コーパスの活用法を解説したものとして、多くの先生方に読んでいただく機会を得た。

そして今回が3度目の連載なのだが、この3年間に世の中の事情はかなり変わってしまった。私は2003～2005年度の3年間、NHKテレビ「100語でスタート! 英会話」を担当し、テレビでついに「コーパス」を登場させてしまった。私が産みの親ということになっている「コーパスくん」は幼児からお年寄りまで人気キャラクターになった。コーパスを本格的に用いた英会話番組は世界初で、海外の研究者達に「100語」の話をして「日本では幼稚園児がコーパス (corpus) という単語を知っている」というとびっくり仰天した。Corpus という単語は専門用語で、普通のネイティブは知らないからである。シリーズを1冊にまとめた「コーバ

ス練習帳」は30万部ちかいベストセラーになり、アメリカ・オーストラリア編のDVDシリーズも10万部近く売れた。NHKのみならず、アルクや他の出版社もコーパスを中心とした語学教材に興味を示し、関連書籍もいろいろ出るようになった。

それだけではない。主要な英語教育学会の口頭発表に「コーパス」が取り上げられることが以前よりも多くなった。私が講演者として招かれる際も、「コーパス言語学をわかりやすく」という依頼が増えた。中高の英語教員研修の分科会で以前は「語彙指導」などで招かれることが多かった私が「コーパスと英語教育」で話してください、と言われるようになった。

これらの変化はすべて、「コーパス」が英語教育を変える重要なカギを握っている、という認識を皆が持つようになってきたからであろう。この連載では、そのようなコーパスのもたらす情報が英語教育のどういう側面を変えるのか、具体的な例を示しながら検討し、さらに中高の英語教員に役立つアイデアやノウハウに関して実例をもとに紹介していきたいと思う。





## まずは基本を少々:「コーパス」に関して知っておきたいこと

コーパスの基本概念の詳細は、以前の私の連載や「英語コーパス言語学」(研究社)などの概説書に譲るとして、ここでは大きなポイントだけを押さえておきたい。

数年で出現した。さらに、自分が電子化した個人データを検索できるようなソフト(これを concordancer という)もいろいろなものが出回る時代になった。

### (1) コーパスとは?

実際に話されたり書かれたりした言語テキストを一定の目的と方法をもって大量に収集・電子化したもの

### (2) コーパスの種類

○ 汎用コーパス (general corpus):  
分野バランスなどを考慮して大規模に収集されるもの(例: British National Corpus, Wordbanks Online など)

○ 特殊コーパス (specialized corpus):  
特定の研究目的で分野テキストを収集したもの(例: 学習者コーパス, ESP コーパス, 話し言葉コーパス, など)



英語に関して言うと、もはやコーパスは研究者の使う特殊な言語資料ではなくなった。一般の人がインターネットで気軽に利用できるようなコーパス検索サービス(例えば、小学館コーパス・ネットワークなど)がこの

### 主要なコーパス検索サービス

- 小学館コーパス・ネットワーク  
(<http://www.corpora.jp>)  
インターネットで最も信頼の高い英語コーパス BNC を検索することが出来る。

### 主要なコンコーダンサー

自分の収集した電子テキストがあれば、以下の検索ソフトを用いて、基本的なコーパス検索を自分のパソコン上で行うことが出来る:

#### Windows 用

- WordSmith  
(<http://www.lexically.net>)
- MonoConc Pro  
(<http://www.athel.com/>)
- TXTANA Standard Edition  
(<http://www.biwa.ne.jp/~aka-san/>)
- AntConc\*  
(<http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/>)

#### Mac 用

- Conc\*  
(<http://www.sil.org/computing/conc/>)

(注:\* はフリープログラム)



## コーパスと英語教育の接点

それでは英語授業にコーパスはどのように活かされているのだろうか? この6回の連載は、中高の現場に密着したコーパス活用のアイデアやノウハウについて実践例を紹介しながら解説していきたいと思っている。そのために、現場の先生たちの中からコーパスを用いた実践をされている方々にご登場いただき、その活用のポイントを私が解剖していく、というアプローチをと

てみようと思う。

今回は第1回目なので、具体的な実践例は次回以降に譲ることとして、英語教育にコーパスがどのように活かされているのか、その大まかな様子を把握してこ

う。英語教育においてコーパスが活用できる領域は大別すると2つある:




- ① コーパスをシラバス・教材作成などに間接的に利用する
- ② コーパスを授業の中で直接利用する

現在、コーパス利用の中心的な成果は①の間接利用において最も顕著な形で見ることができる。そのいくつかのポイントをまとめてみよう。

**コーパスの間接利用の例**

- ◎ 辞書
- ◎ 文法書
- ◎ 学習語彙表
- ◎ 英会話教材

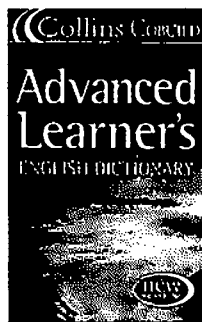


このへんは案外無意識のうちにコーパスの恩恵を得ている分野なので、1つずつ確認しておこう。

### (1) 辞書

英語辞書はコーパスが教育利用で最初に活用された分野である。1987年に出版されたCOBUILD English Dictionaryが、世界で初めて全面的にコーパス・データに準拠して作成された英語辞書だった。今でもこの辞書が出た時の新鮮な驚きを忘れない。斬れば血の出るような生々しい用例、ネイティブ・スピーカーが語りかけるような単語の定義文、語義順がコーパス分析によってフレーズや句の頻度を加味した斬新な配列になっている、など、当時の辞書としては画期的な特徴を有していた。

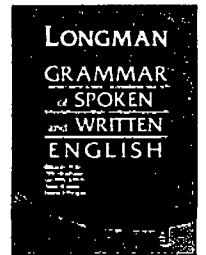
このCOBUILDの成功によって、英国の他の辞書出版社はこぞってコーパス利用の辞書編纂にとりかかる。いわゆるBig 4といわれるCOBUILD, LDOCE, OALD, CIDEの4冊がすべて“corpus-based”と銘打って改訂



(CIDEは初版)されたのは11年前(1995年)である。その後は各出版社とも自社内に大規模コーパスを構築し、数億語のコーパスを辞書編纂用に活用している。

### (2) 文法書

辞書に続いて海外では英文法書もコーパスの影響を受けている。最初の本格的なコーパス準拠の文法書はロングマンが1999年に出版したLongman Grammar of Spoken and Written English (LGSWE)である。1000ページ以上の大作で、LSWE Corpusというこの文法書独自の4000万語のコーパスを作成。特に、大きなテキストのジャンルとして conversation, fiction, news, academic prose という4分野を設定し、この4つの分野による語法・文法の使い分けを詳細に解説している。



それ以外にもCambridgeから会話文法を中心としたExploring Grammar in Context (2000), The Cambridge Guide to English Usage (2004)などが出版されている。

### (3) 学習語彙表

学習語彙表も古くはThorndikeの語彙表のように、電子化以前でも言語資料を基にした立派なものがあったが、最近では語彙学習ブームに乗って、コーパスを活用したものが増えてきている。



その最も新しく科学的な手法を貫いているのが、JACET8000である。これは1億語のイギリス英語のコーパスBNCの頻度リストに、日本人英語学習者が接する可能性の高いいろいろなジャンルの英文コーパス(例えば入試問題、教科書、英検・TOEICなどの資格試験、時事英語、など)の頻度リストを合成したもの。従来まったく入っていなかったような新しい単語や口語的な語彙がランクの上位に来ており、なかなか新鮮である。桐原書店からJACET8000に基づいた単語帳などが発売されている。

#### (4)英会話教材

最後は英会話教材。そしてこれは私が関わった「100語」関連の教材が中心。残念ながら2006年度は番組が終了してしまいましたが、NHKで2003年4月にテレビ語学番組全面改編の目玉として登場し、3年間ロングランを続けた英会話番組。100のキーワードはどれも中学校で出てくる基本的なものばかり。しかし、その使い方をコーバスで調べてみると、案外一筋縄ではいかない。例えば、have十名詞のトップ5は以下のようになる：

##### have + 名詞 トップ5 とその典型例

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| ① look        | have a look             |
| ② time        | have no time to ...     |
| ③ place       | have no place to ...    |
| ④ money       | have no money           |
| ⑤ problem (s) | have a problem with ... |

I have a pen. は習っても、その後、①～⑤のようなより抽象的な名詞と have の組み合わせ表現が使いこ



#### コーバスと英語教育の接点

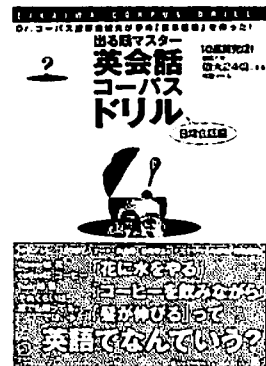
コーバスの間接的な辞書・文法書・英会話教材開発などへの応用が盛んなことは分かっていただけだと思う。実はコーバス活用の最も肝心な部分で手付かずなのは「直接利用」の分野なのである。

コーバスは「道具」であるから、「教科書」と同じような視点で、授業にどう活かすかを考えていく必要がある。間接的にコーバスからの知見を利用する場合と、もっと直接コーバスを活用して自分の授業を変えていく、そういったアプローチも可能なはずである。

第2回目からは、そのような「直接的なコーバスの授業への利用」を中心に見ていきたいと思う。この数年で、

なせるようなレベルまで英会話力がアップしていない人が、このランキングを新鮮に感じて「基礎語彙の使いこなし」を意識するようになった。

「100語」は1冊にまとめられて、「コーバス練習帳」としてベストセラーになった。この本が売れたので、出版社も「コーバス」という言葉に魅力を感じて、次々と関連本が出るようになった。例えば、アルクの「出る順マスター英会話コーバードリル：日常会話編」。これは是非紙面の実物を見ていただきたいのだが、「100語」とは発想が逆で、日常会話で使いこなしたい名詞を中心に「dog=犬」は知っているが、「盲導犬」は？「犬を散歩に連れて行く」は？といった dog を活用できる英語フレーズに組み込んで覚える、という発想で作ったものである。そのうえ、その英語フレーズがコーバスで調査した dog を使ったコロケーション（連語）の頻度情報を基にしているという優れもの。



中高の英語教員のコーバス利用のニーズは非常に高まってきている。コーバスがあれば何が出来るのか、自分の授業のこういった部分を補強してくれるのか？ どのような具体的なアイデアがあるのか？ これらの質問に真正面から答えていけるような連載を心がけたい。

読者の先生方の中で、私もコーバスを使ってこんなことをやっている、という方がいらしたら、是非私に連絡をして欲しい。大いに議論し、互いの実践を磨いていこうではないか。

(メールアドレス:y.tono@meikai.ac.jp)

#### 投野 由紀夫 (とうの・ゆきお)

明海大学外国語学部教授。専門は学習者コーバスを用いた第2言語習得(特に語彙習得)研究。広くコーバスの英語教育への活用にも関心がある。NHK「100語でスタート! 英会話」の講師を務め、コーバスという言葉を世に広めた。趣味はパソコン、珈琲、ギター、辞書・コーバス収集。

